

課題及び審議テーマ(案)について

審議テーマ(案)	課題(委員提案要旨)	検討の方向など	委員(団体名等)
1. 児童の登下校時の安全確保	児童の登下校時の安全確保〔第1期審議未了課題〕		
	子どもたちの安全 ・安心して通える通学路の確保 ・不審者が出たときの対応	・地域と連携し、散歩の時間等を下校時間に合わせてもらい、見守ってもらう。 ・スクールガードリーダーを中学校区で1名設置する。	菅野 具江 (幸区PTA協議会)
2. 地域防災活動の推進	地域防災対策 ・避難場所(施設)の安全性(耐震性)が問題になっている。 ・要救護者(要援護者)の把握が進んでいない。 ・防災対策としてトイレ対策(浄化槽)ごみ・汚物処理、電源設備に関する問題が検討されていない。 ・マンション(高層・大規模)住民が組織する自治会と、周辺住民町内会との交流があまりない状態である。	・避難場所(施設)の安全性を再検討する。 ・防火・避難経路確保のため、緑化対策(グリーンベルト)を推進する。 ・老人会・民生委員等と協力して積極的な要救護者(要援護者)名簿作成と避難完了プレート作成・配布を行う。 ・避難場所(施設)における浄化槽・ごみ・汚物処理・電源設備を準備する。 ・各世帯への簡易トイレを準備、推進する。 ・下水マンホール利用の簡易トイレを準備、推進する。 ・新築(計画中)、既存高層(大規模)建築物を地域防災拠点として活用する。(防災設備の充実を図る)特に提供公園の存在価値を再検討する。 ・マンション自治会(管理組合)の町内会への積極的な参加・交流を推進する。	三浦 敏博(優先1) (公募委員)
	災害時の要援護者、高齢者への支援 ・町内会では要援護を始め高齢者に対してどのような支援したらよいか考えている。ここで問題なのは、役員自身も高齢化が進んでいることである。 ・町内会によっては、住民の年齢層に大きなばらつきがある。若い人の少ない町内会は、それにどう対処したらよいか。		猪股 清二 (川崎市幸区社会福祉協議会)
	災害時における第2避難所の設置運営 ・幸区内においても災害時における避難所立ち上げ及び運営を想定内で訓練を実施するようになった。しかし福祉避難所については、積極的に取り組んでいない。 ・医療救護所及び「心のケア」隊のチーム編成等基盤整備が疎かである。 ・医師、日赤奉仕団、保健所、社協等の中身の濃いプロジェクトチームの編成が急務である。	・参加者の選定を慎重に、専門家を講師にした学習会を開催する。対象者はプロジェクトリーダーの方と自主防災隊の有識者とする。 ・肩書きだけの参加は避ける。災害に対して見識を持ち、実動部隊になり得る人及び関係各諸団体のチームリーダーたる人を参加させる。 ・アクションプラン(行動計画)を確立する。	萩原 保夫(優先1) (幸区民生委員児童委員協議会)
3. 暮らしやすい住環境づくり	ビルによる日照・風害などの住環境問題〔第1期審議未了課題〕		
	風害(ビル風)対策、ヒートアイランド対策 ・近年高層(大規模)建築物の建設が進むことに伴い、風害(ビル風)が発生している。 ・風の流れが変化し、ヒートアイランド現象が発生するおそれがある。 ・開発規模により竣工後の環境調査の義務がない場合が多い。 ・開発業者は計画を分割申請することにより、環境アセスメントに対応することを避けていることも考えられる。	・事業の種類にかかわらず事後調査報告書の作成、提出を業者に対して指導する。環境影響評価項目に対して問題が生じるようなら改善策を取るよう指導する。 ・住民によるまちづくりのルールづくりを進める。 ・開発事業を点としてではなく地域という面として考える必要がある。	三浦 敏博(優先2) (公募委員)
4. 総合的な自転車対策(交通安全)の推進	自転車道の着工 第1期区民会議で提案し、市の交通安全対策協議会でも提案したが、国の法令、県の条例、市の条例等、多くの問題の研究が必要である。	・自転車道路が出来ても、市民の自転車のマナーの向上と自動車使用者のマナーの向上が求められる。(せっかく自転車道路を作っても駐車してしまう)	安岡 信一 (川崎市幸区交通安全対策協議会)
	自転車に係わる交通安全及び駐輪場の効率化 ・自動車利用から自転車活用へ。(二酸化炭素低減)貸出自転車制度を導入する。 ・安全ルールを更に徹底する。(親子、自転車、安全体系含む) ・放置自転車を極力減らす。自転車駐輪場の効率をアップさせる。	・用地確保が難しくなってくるので、駐輪場を立体化する。 ・安全対策として、自転車と歩行者を分離する。親子乗りについては幼児のヘルメット着用ルールを検討する。 ・住民・区政協働による指導、パトロール隊を設置する。 ・遊休自転車等を利用した貸出制度を検討する。(駐輪場を減らす) ・7区連絡会を実施する。(良いアイデアを採り入れる)	松脇 正隆(優先2) (公募委員)
5. 健康で生きがいの持てる地域づくり	食育 ・1日で一番大切な朝食抜きの子どもの将来が心配である。 ・成長期の子供達がコンビニ弁当など外食に頼りすぎる日常では、添加物の蓄積や野菜不足が懸念される。 ・食事(料理)は「家族への愛」だと思う。三世代先まで続けたい。	・夏休み親子料理教室を学校単位で行ってみる。 ・短時間に出来る簡単料理レシピなどを作り、PTAなどを通じ配布する。	高瀬 芳江 (公募委員)
	グランドゴルフの推進 ・子供から高齢者まで男女問わずゴルフのパター方式でグランドゴルフを楽しむ。	・地区単位で大会を開催する。個人戦、団体戦でチームワーク等を学ぶ。健康づくりにもなる。	加藤 康夫 (幸区自主防災連絡協議会)
	高齢者の生きがいと健康づくり ・実効性のある健康づくり、介護予防活動の推進が求められている。 ・これまでつちかってきた知識や経験を活かして元気高齢者の活力が発揮できる場作りが必要である。	・老人クラブでは、健康、友愛、奉仕という三大運動を進めている。その活動の中で高齢者に生きがいを見つけてもらい、健康づくりに取り組んでいる。これらの取り組みを老人クラブだけでなくもっと多くの人に波及させていく。	綱川 幸子 (幸区老人クラブ連合会)

6. 地域防犯活動の推進	街頭犯罪の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ひったくり等に対して高齢者に自己防衛の教育を行うなどにより防止をアピールする。 ・キャッチセールス、特に高齢者を対象とするものの防止を図る。 ・小中学生に対する露出などの行為に対し地域の対応を図る。 	荒井 康夫 (幸区医師会)	
	青少年の犯罪抑止運動	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生～20歳までを対象とする。 ・家庭での放任状態により、一家に寄り付かず、友達の家やメール友達を作って遊んだり、他校との友だち等同じ境遇の仲間を作るようになる。 ・子どもたちの遊びがゲームやパソコン等室内向きになってきた。 ・ディスカウントショップ大型店が進出し、子どもたちがゲーム等求めてそこに集まる。他校との交流もあったりする。誘惑させる商品もたくさんあり、万引き等も増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーイスカウトや子ども会の活発化 ・ディスカウントショップにボランティアスタッフを設置してはどうか。 ・子どもたちに自分を表現できる場を与える。地域、専門家、学校等協力を得て、自分に合った創作活動を仲間と作り上げていく。(音楽、絵画、ものづくり等) 	松世 三重子 (夢コンサート実行委員会)
審議テーマ(案)	課題(委員提案要旨)	検討の方向など	委員(団体名等)	
7. 安心して子育てできる環境づくり	子育て支援	同居家族(父母)のいない核家族化の中での出産、育児について、全てが初体験の母親は、不安と焦りの中で、毎日のストレスとの戦いは大変なものである。	・核家族化の社会で高層ビルの谷間に住み、父母あるいは祖父母との共同生活の出来ないマンション住まいについて、社会がどれだけ支援できるか。	石野 實 (公募委員)
	家庭内での子供への虐待防止	幼い子供を素直な子に育てるため、多くの人に関心を持って救うためにはどうしたらよいか。	・幼児・児童が日常と変わった様子が見られたら、通っている保育園、幼稚園、学校等に早めに連絡し、調査を依頼する。	酒井 清 (幸区保護司会)
8. ごみ減量・リサイクルの推進	リサイクル資源の回収方法	・新聞・ダンボール・紙類の回収について地域によってかなりの差がある。	・各町連、各地区の方々への積極的な働きかけと成功例を提示するなど住民に対しアピールを行う。	神谷 厚子 (幸区子ども会連合会)
	一般廃棄物の不法投棄	ごみの集積所、歩道等の植え込み、河川敷等への不法投棄が後を絶たない。	・粗大ごみの処理手数料を廃止する。 ・投棄物への貼紙告知、看板、カメラの設置、パトロール	沼田 孝夫 (幸区町内会連合会)
9. 緑化推進(緑の創出と育成)	緑化推進(第1期審議未了課題)			
	水と緑のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市の都市マスタープランで緑の街づくり計画を推進する。 ・区内の新川崎・鹿島田地区が川崎市緑化推進重点地域の候補地となっている。(～H22) ・幸区の緑化率は7区の中でも充分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の充実を図る。モデル地域を選定して、木の種類、木とサポート低木のコラボレーション、管理の負荷低減法等を検討して、区全体に広げる。 ・ビルの壁面、屋上について緑化を検討する。 ・水については(小規模な)噴水等も設置できないか検討する。 ・公園の緑化状況、区内の緑の小道の実状について調査し、点や線の緑化を面への緑化に結びつけ、面積だけでなく体積緑化につなげ、緑のボリュームを上げる。 ・横のつながりを強化にするため、コミュニティづくりを支援する体制、仕組みを考える。(フォーラム、7区との連携、市との連携等) ・企業への働きかけによって、区民・行政・企業が一体となった緑化の推進を進める。(アンケート実施、住民への開放、協議会等) 	松脇 正隆(優先1) (公募委員)
10. 地域資源を活かした魅力づくり	子どもたちの自然体験の場の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・幸区の緑地は、他区に比べ少ない。 ・子どもたちの自然体験が少ない。 ・自然体験をする場も少なく限られている。 ・自然にふれ、のびのびと遊べる場を創出していくのが望ましい。 ・身近な場所で創出できることが望ましい。(地域の活性化、サポート体制のとりやすさ、幼児を連れての移動などを考慮) 	<ul style="list-style-type: none"> ・区内に今ある自然体験の場(加瀬山・多摩川・矢上川)を活用し、自然とのふれあいがしやすい場所づくりをする。 ・土・水・草・虫たちとふれあう空間を確保する。恒常的に行うことが望ましいが、月1回などの実施という方法もある。公園の活用も可能性がある。 ・子どもたちの自然体験の場の必要性について、区民の意識を高める。 ・場を維持していくサポート体制をつくる。 	庄司 佳子 (矢上川で遊ぶ会)
11. 地域コミュニティ活動の推進	地域コミュニティの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・転勤・転入層が多く、新旧住民が混在している。 ・地縁型とテーマ型の交流が少ない。 ・活動内容、人材が固定化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な住民層の参加しやすいしくみづくりを行う。 ・人材の発掘と養成、受入れのしくみづくりを行う。 ・転入者や若年者の参加促進を図る。(新たな活動の創出、多様な参加方式を用意、若年者への継続的な参加の呼びかけ、リーダー層の固定化の防止、マンションなどの所有者や管理会社と自治会などとの連携、積極的な広報や情報公開など) 	今井 淑子 (さいわい市民活動懇談会)
	市民自治のまちづくり	そこに住んでいるという人たちの集まりから自治を考えていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の住民がいつでも誰でも参加ができて、一人一人が市民としての自覚を持って協働していく。 ・自治の啓蒙活動が必要である。 ・昔からの上から下への行政が、下から上へと逆になる構造を創る。 	深瀬 和則 (日吉商店街連合会)
	地域の全ての人が集える場としての昔遊びの伝承館の設置	児童・高齢者・障害者全ての人が集える場所として居場所作りへの積極的な取り組みが求められている。	<ul style="list-style-type: none"> ・親子のふれあいの場、子どもと親のたまりの場、子どもと高齢者のふれあいの場、子どもにとっては先生、高齢者にとっては生きがいの場、異年齢の交流の場としての伝承館を設置する。 	萩原 保夫(優先2) (幸区民生委員児童委員協議会)